

Robotics Report

新たな常識のはじまり

米国で感染症対策に活用されたロボティクスの技術

nikko am
fund academy



新型コロナウイルスの感染が世界規模で拡大する中、世界各地で感染拡大を阻止し早期に収束させようと、ロボティクス技術が活用されています。今回は、ユースケース（活用事例）が拡大している米国の事例を紹介します。

？ 米国でウイルス感染の水際対策に活用されたロボティクス技術とは

米国で初めて感染判定を受けた患者の治療にあたったプロビデンス・メディカルセンターでは、遠隔操作型医療支援ロボットを活用して、隔離病棟にいる患者とコミュニケーションをとりながら診察を行なっています。このほか、メイヨー・クリニックでは、自立走行型シャトルがドライブスルー検査場で収集した検体などを施設まで運んでいます。

また、米疾病対策予防センターでは、チャットボットを導入して、ウイルス感染が疑われる症状がある場合の対処方法を伝えています。

一方、飛行機の滅菌を専門とするダイマーUVCイノベーションズは、航空会社のウイルス拡散防止を支援するために、紫外線を客室内に照射して殺菌するロボット「GermFalcon」を無償提供しました。同社のロボットは、サイズが大きく汎用性が低い医療施設向けと違い、コンパクトな設計で、飛行機内部の殺菌に特化しています。



※イメージです。

このように、米国では、感染症の水際対策にロボティクスの技術が随所に活かされています。

？ 米大手IT企業が力を入れるウイルス対策とは

20年3月、米国においてスーパーコンピュータで新型コロナウイルスの治療法を研究する官民一体のコンソーシアムが発足しました。ウイルスに対する研究は膨大な計算が必要なため、大手IT企業が持つ演算能力の高いコンピュータで開発時間の短縮を図る狙いです。このほか、統計解析会社のSASが米国食品医薬品局など政府省庁と協力し、世界中の患者に関する情報を機械学習で分析し、ウイルスの拡散経路を予測するサービスを提供しています。



※イメージです。

また、ニューヨーク大学は中国の病院と共同で、重症化する感染者を最大80%の精度で予測できるAIツールを開発しました。開発に当たっては、中国の患者のデータが共有され、医療リソースが不足する中、現場の意思決定の補助となることが期待されています。

なお、日本の学界関係者は「ワクチンなど創薬の方面でもAIは活躍していくはずだ」、と今後の見通しを語っています。

新型コロナウイルスの封じ込めや治療においては、ロボティクス技術がさまざまな用途で活用されており、今後、得られた知見やノウハウをベースにさらなる進化が期待されます。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。